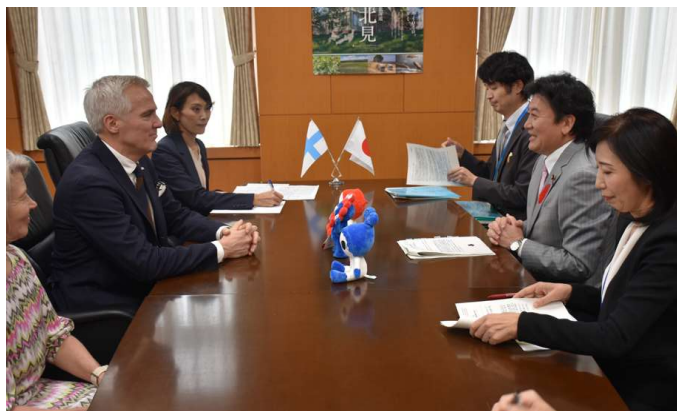


フィンランド教育大臣 文科省訪問、連携交流強化を確認



教育について話し合うアドウレルクロイツ氏(左列㊤)と武部副大臣(右列㊤)

フィンランドの教育大臣兼北欧協力大臣であるアドウレルクロイツ氏は、大阪・関西万博(※10月13日に閉幕)への参加や、日本の初等中等教育現場を視察するために来日した。フィンランドは、デンマーク、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンの北欧5カ国で「北欧パビリオン」を出展しており、武部副大臣は「北欧パビリオンは、教育とイノベーションを通じて世界的な課題への取り組みを発信しており、大変興味深く感じている」と謝意を示した。また、「今日は都内の学校を視察されたと聞いている。ぜひ、貴重な話を聞かせていただきたい」と語った。

懇談は冒頭のみ公開で、文科省によると、日フィンランド間の教育分野における課題認識を共有するとともに、さらなる連携・交流強化を確認したという。



阿部文科大臣(中央㊤)に提言を手渡す森衆院議員(同㊤)ら

「学びの場」確保を 国民民主党、障害福祉で提言

阿部俊子文部科学大臣は10月14日、国民民主党の国会議員らによる表敬を受けた。文科省を訪れたのは、子ども子育て・若者政策調査会会長の伊藤孝恵参議院議員、同会事務局長の森洋介衆院議員ら。伊藤氏は特別支援教育における学びの充実と卒業後の「学びの場」確保などを訴えた。学校卒業後に障がいのある本人とその家族が直面する「18歳の壁」は、子ども自身の「居場所」や「学びの場」の不足のみならず、保護者の就

労継続や生活にも深刻な影響を及ぼすとし、実態調査や特別支援教育に携わる教員育成の強化、専門支援員の拡充、特別支援学校の活用など新たな対応策の検討を提言した。

面会後、取材に応じた森氏は「特別支援学校は、6年・3年・3年」が一般的だが、障害がある子どもたちは発達のスピードが人それぞれなので、6・3・3の在り方から見直してはどうかと大臣にお伝えした」と語った。公明党が10日、自民党との連立政権からの離脱を表明。首相指名選挙を巡り、与野党の駆け引きが続いている。こうした中での表敬となったが、森氏は「障害福祉については政局に関係なく、常に困っている人たちがいる話だ。党内で取りまとめができた段階で速やかに提言を行う考えだった」と説明した。

高校無償化に向けた3党合意

文科大臣「協議進展に期待」

阿部俊子文部科学大臣は10月14日の閣議後会見で、公明党の連立離脱による高校授業料無償化への影響についてコメントした。

高校無償化を巡っては、自民、公明、日本維新の会の3党が今年2月、2026年度から家庭の収入に関係なく、授業料(私立高校も対象)を支援することで合意している。阿部大臣は「今年2月の3党合意は、3党の党首が政党として合意したもの。連立を離脱されたことによって協議が進まなくなる話では必ずしもないのではないか。いずれにしても、受験生や高校生が不利益を被ることがなく、安心して進路選択ができるよう、協議が進められることを期待している」と述べた。